

2016 年 JAM スタディーツアー実施報告 【東京事務局 熊埜御堂 美亜】

1. 日程 2016 年 9 月 5 日～9 月 10 日

2. 成果 スタディーツアー全日程を終了、メータオ・クリニック・移民学校・ゴミ山 などを見学し、タイとミャンマーの国境に住む人々の生活について実際に見て学ぶことができました。

3. 行動経過

9/5(月曜日) 18 時頃にメソト空港に到着。JAMの現地派遣員と合流した後、タイとミャンマーの国境である国境の橋へバンで移動し国境周辺を見学しました。土手に住んでいる人たち、タイの道に入らないよう、土手の下から足の長い小屋を作りタイ側の道を歩く人に手すり越しに商売している様子、子供たちがサッカーをしている様子など見ることができました。国境の川にはボート出してミャンマー・タイ間を行き来する人がいましたが、川周辺にはタイの軍人が銃をもって見張って不法侵入を取り締まっている様子が見られました。30 分ほど国境の橋を見学し、その後ビルマ料理を食べることができるレストランで食事をして 21 時に D.K ホテルにチェックインしました。

9/6(火曜日) 朝 7 時に朝ごはんを近くのおかゆ屋さんで食べました。8 時 10 分出発して、新メータオ・クリニックに向かい、スタッフ案内の元、クリニック内を見学しました。受付から始まり、眼科、小児科、産婦人科、輸血室、検査室、薬局、滅菌室、内科・外科病棟、産婦人科病棟、小児科病棟内を見学しました。現地スタッフによるとメータオ・クリニックには 1 日に 300～400 人の外来患者が訪れるそうです。そのうち、45%がビルマから、残りの大半はメソトに住む患者だそうです。メータオ・クリニックは、医療施設としての活動、医療スタッフの教育機関としての活動、さらには、難民として生まれた子供が国籍を得るための活動を行っているそうです。シンシア先生との座談会では、こうしたクリニックの活動や理念についてなど詳しくお話を聞くことができました。小林JAM代表のワークショップでは、援助論におけるリバタリアンとコミュニタリアンについて、援助を行うときにぶつかり合う、プロプアとガバナンスの二つの考えかたなど援助について、対象者や方法、援助をするときに必要な能力などの面から学ぶことができました。17:00 メータオ・クリニックを出発し 18:30 難民画家マウンマウンティンさん宅にて夕食をいただき、カレンダーなどを購入しました。

9/7(水曜日) 8:10 ホテル出発。8:35～9:30 神谷現地派遣員の案内のもと、旧メータオ・クリニックを見学しました。旧メータオ・クリニックは、昨年まで使われていたクリニックで現在は、鍼灸、マッサージなどの診療科と医療スタッフのトレーニングルームとして使用されています。診療科については、中まで見ることはできませんでしたが、トレーニングについては母性看護教育の担当の方から話を聞くことができました。現地スタッフによると、トレーニングを終えた人は資格を取ることはできませんがメディックとしてメータオ・クリニックで医療スタッフとして働いているとのことでした。11:00～13:00 移民学校 HOPE 校を訪問。HOPE 校では、生徒から歌のプレゼントがあり、その後自分たちからも車内で練習した、「幸せなら手を叩こう」を披露しました。最後に、生徒とみんなで歌いました。その後、メータオ・クリニックのスタッフが手洗い教育を行っているのを見学しました。蛍光塗料を用いた手洗いチェッカーや絵や図を使用してわかりやすく工夫された健康教育を行っていました。12:00 昼食。昼食後、日本から持ってきた文房具などの寄付を行い、子供たちと遊びました。遊び方は参加者さんでそれぞれでしたが、折り紙で作った飛行機やシャボン玉、スーパーボールなど持参した遊び道具に子供たちは喜んでくれました。その後、クリニックスタッフによる歯ブラシの使い方指導を見学しました。また、子どもたちの中には、タイの子、ノンタイの子どもが含まれていて、両親は周辺で農業従事者として働いている場合が多いと校長先生から話を伺い、そうした子供たちのための寮を見せてもらいました。15:00～16:30 SKY BLUE 校を訪問。案内して下さった先生によると SKY BLUE 校に通う生徒はほとんどゴミ山に住む子供たちで、両親も一緒

に住んでいるそうです。授業終了間際の様子を見せてもらいました。学校終了前には全校生徒が校庭に集合し、タイの国家とミャンマーの国家を歌っていたのが印象的でした。ゴミ山の見学では、ゴミ山周辺の家族の家をのぞかせていただき、お話も聞かせていただきました。子供3人と両親で暮らしている家は、竹で高床式に作られていました。電気はお金を払えば使用可能ですが、彼らの収入にとっては高額で電気をひいている家は多くないと同行していたメータオ・クリニックのスタッフから聞きました。訪問した家族は、入浴は周辺住民が使用できる場所がある、トイレはないなど生活のことを教えてくれました。17:00 ホテルに到着し 18:00 に夕食を食べました。

9/8(木曜日) 8:30 トゥクトゥクにてメト病院に向かいました。9:00~12:00 初めに看護部の方々が歓迎してくださり、施設の概要を紹介していただきました。その後、病院スタッフの案内の元、院内の見学をしました。今回は、参加者の希望より、主に検査室の見学、産科病棟の見学、小児科病棟の見学、及びタイマッサージ診療科の見学をしました。メト病院はメト郡のタイ公立病院ということもあり、検査室に関しては日本と同様な装置が備わっていました。産科病棟に関しては、病棟内までは見学できませんでしたが、ファミリープランニングを行っているところも見せてもらいました。病院の看護師によると、メト病院は移民の患者も多く受け入れているようで、産科では今まで産前健診に来ていなかった移民の患者が多いという話でした。メト病院では移民の人たちに対しても積極的にファミリープランニングや妊婦検診を行っていきたいと考えているそうです。タイマッサージの診療科では、血圧や体温の測定後、本格的なタイマッサージを受けることができる、タイでは主流な診療科です。参加者2人がマッサージを受けさせてもらいました。12:00 ミャンマーの国境を越え、ミャンマーの市場や寺院を見学しました。同時間に幾人かのツアー参加者がミャンマー料理教室で料理を習い、その日の夕食を作ってくれました。19:00 夕食。

9/9(金曜日) 8:50 難民キャンプで図書館事業を行っている日本のNGOシャンティ国際ボランティア会(SVA)さんと難民キャンプに向かいました。難民キャンプでは初めに、高校を訪問しました。SVAさんによると難民キャンプには、小学校から大学まであり、高校を卒業した生徒のほとんどがキャンプ内の大学に進学しているそうです。高校を見学した後、キャンプ内の病院を見学しました。病棟内の見学に加え、薬局内や予防接種、ファミリープランニング、自殺予防講演などを行っているところをみることができました。12:00 SVAさんの事業である図書館にて昼食。午後は、図書館の活動の見学、家庭訪問を行いました。図書館の本は、日本など外国の絵本のもので、ビルマ語、タイ語、カレン語の訳がされていました。見学した図書館の活動では、図書館のスタッフが子どもたちに絵本の読み聞かせをしたり、みんなで歌を歌ったり、ゲームをしたりして30名ほどの子供たちが参加していました。私たちも、折り紙を作って子供たちと遊ぶことができました。家庭訪問では、母・娘二人暮らしの家にお邪魔し、家の中を見せてもらいました。訪問先のお母さんから、近所に住んでいる子供や家族・近所で協力して生活しているため生活に不自由ないなど、難民キャンプの生活について話を聞くことができました。キャンプ内では、米などの基本的な配給を受けられ、キャンプ内は経済活動が禁止されていますが、実際はキャンプ内にこの親子もよく利用するという市場が充実していました。17:00、ホテルに一時帰宅し、18:00 から SVAさんを含めてウィークエンドマーケットにて夕食。

9/10(土曜日) 10:00 から1時間ほど全体の振り返り、アンケートの収集をおこないました。11:00 にタクシーで空港に向かい、12:40 の飛行機にてバンコクに移動、ドンムンアン空港で解散しました。以上が今年のスタディツアーの報告でした。今年も多くの出会い、思いや学びがぎゅっと詰まったスタディツアーになりました。メータオ・クリニックと国境の現状は年々変化していますが、私たちJAMIは、続けられる限り、国境と日本をつなぐスタディツアーを実施していきたいと考えています。